

## 12月の消費動向調査結果・・・再び指数が悪化

2021年1月19日

今日は1月6日に発表された内閣府の消費動向調査(12月の分)の結果をご紹介します。この調査は毎月実施しているもので約8400世帯を調査対象としています。先月分は12月7日にこのブログでご紹介しました。

調査項目は、5つの質問(a)暮らし向き、b)収入の増え方、c)雇用環境、d)耐久消費財の買い時判断、e)資産価値)に対し、①良くなる、②やや良くなる、③変わらない、④やや悪くなる、⑤悪くなると言った5つの選択肢から回答するものです。それでは早速2020年の6月～12月までの推移を見てみましょう。

[消費動向調査 12月実施分 \(cao.go.jp\)](http://cao.go.jp)

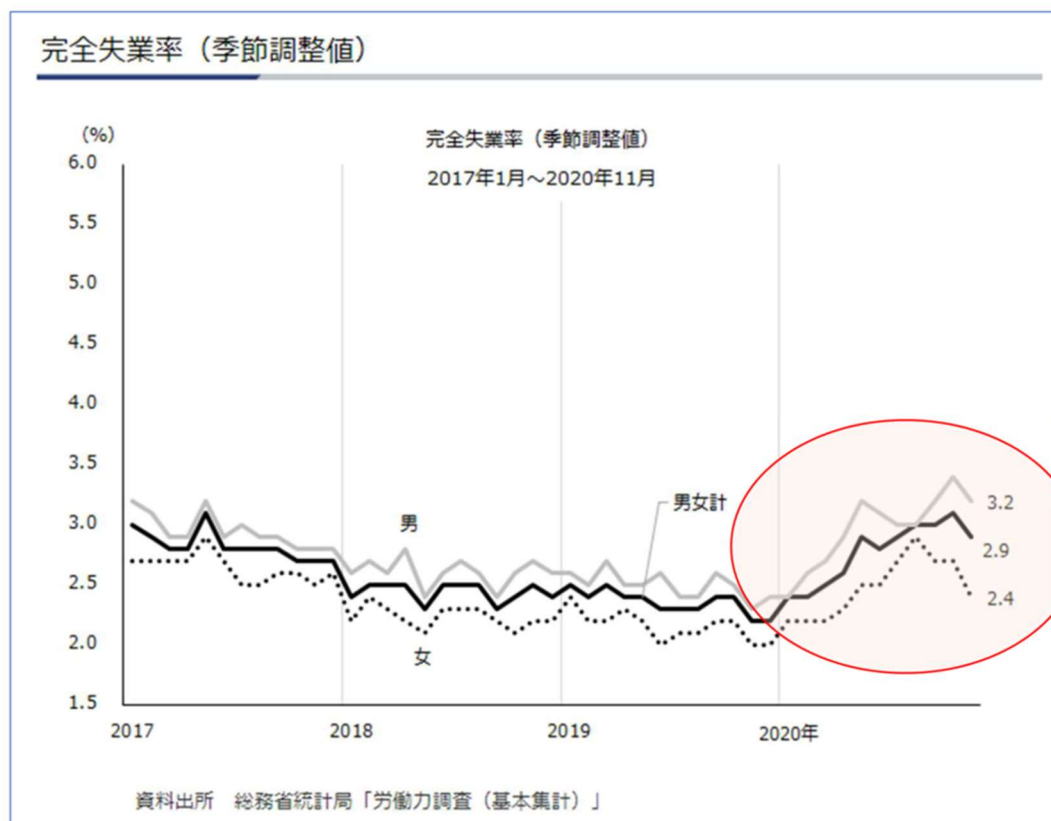
	令和2年 (2020年)						
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
消費者態度指数	28.4	29.5	29.3	32.7	33.6	33.7	31.8
(前月差)	4.4	1.1	▲ 0.2	3.4	0.9	0.1	▲ 1.9
暮らし向き	30.4	31.7	31.4	35.1	36.2	36.7	34.9
(前月差)	5.4	1.3	▲ 0.3	3.7	1.1	0.5	▲ 1.8
収入の増え方	31.4	32.8	32.7	34.8	35.3	35.7	35.0
(前月差)	3.6	1.4	▲ 0.1	2.1	0.5	0.4	▲ 0.7
雇用環境	20.9	21.7	21.2	26.0	27.1	26.5	23.6
(前月差)	4.1	0.8	▲ 0.5	4.8	1.1	▲ 0.6	▲ 2.9
耐久消費財の買い時判断	30.8	31.6	32.0	34.9	35.7	35.7	33.8
(前月差)	4.5	0.8	0.4	2.9	0.8	0.0	▲ 1.9
資産価値	32.8	33.2	33.5	35.9	35.7	36.0	35.6
(前月差)	3.3	0.4	0.3	2.4	▲ 0.2	0.3	▲ 0.4

(注) 消費者態度指数(季節調整値)は、「暮らし向き」、「収入の増え方」、「雇用環境」、「耐久消費財の買い時判断」の4項目の消費者意識指標(季節調整値)を単純平均して算出している。

8月に一旦小休止はあったものの5月以降続いていた回復傾向が、5項目ともすべて悪化に転じました。水準としては8-9月頃の数値となります。



先月も書かせていただいたように、質問 5 項目の中で最も悪化しているのは雇用環境についての質問です。これは過去を見てもリーマンショック、東日本大震災においても同様な傾向が見られました。それでは実際の失業率についてはどうなのでしょう？



失業率は、2020年1月からジワジワと上がり始めています。直近では少し下がったように見えますが、感染拡大を反映してまた上昇に転じるものと思われます。

総じて言えば、経済か、感染防止かの選択ではないということです。感染防止は至上命題であり、感染防止なくして経済復興はあり得ません。緊急事態宣言が出されてまもなく2週間が経過しますが、新規感染者数が減少に転じなければ、消費者の不安はますます増大することが懸念されます。

昨日、11月の経済産業省の確報結果を組合員にFAXでお送りしました。前年同月比は10月に比べると後退しました。一昨年の10 - 12月は消費増税の影響で、需要が低迷したことを考えると、2年前からは大幅な減少になります。まもなく出される日塗工の業況観測アンケートの12月分実績と1月分予測が注目されます。